

第2学年 図工科学習指導案

日 時 平成16年12月7日(火)5校時
児 童 附馬牛小学校2年 14名
授業者 菊池 和恵

1 題材名 つないでつくろう ふしぎなせかい

2 題材について

(1) 教材について

学習指導要領の第1学年および第2学年の目標は、「表したいこと、つくりたいものを自分の表現方法でつくりだす喜びを味わうようにする。」と「材料をもとにした造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする」となっている。この目標の実現のため、内容のA表現(1)「材料をもとにした楽しい造形活動」では、「身近な自然物や人工の材料を形や色などに関心をもち、体全体の感覚を働かせて、思いついたことを楽しく表すこと。」「土、木、紙など扱いやすい材料を使い、それらを並べる、つなぐ、積むなど体全体を働かせて造形遊びをすること。」とある。

本教材はこれに関わって、身近にある発泡スチロールと割り箸を使い、これらの材料に関心をもち、つなげたり積んだりすることを中心に体全体を働かせて活動するものである。発泡スチロールに割り箸をつなげていく活動は、やり直しが何度でもでき、工夫しながら活動を重ねていくごとに児童が発想をふくらませてつくり、つくりかえていくことが期待できる。また、発泡スチロールを高く積んでいくなどの活動を通して、バランスの良いつなげ方や安定感のある立体になるようなつなげ方を楽しみながら学んでいけるものと考えている。

さらに、できあがったものに蛍光カラーで彩色したり、模様を描いたりすることで色を塗る楽しさや色彩感覚を高めることができる。その後、ブラックライトで照らすことで、思いもかけない効果に驚かせ、できあがった作品にさらに工夫を加えようとする意欲や鑑賞に感動を与えられるものと考えてこの題材を設定した。

(2) 児童について

児童は、図工が大好きである。しかし、自分の思いをうまく表現できないことで、苦手だと感じている児童もいる。また、細かい作業や細かい工夫をするより、大胆におおざっぱにつくっているだけで満足してしまっている児童も多い。

児童は、これまでに、「ふわふわきゅ!」「でるでるマシーン」「こんなところでならべたよ」など様々な造形遊びを経験している。その中で、素材に十分関わらせ、児童の思いを大切に指導してきた。また、段ボールカッターの使い方など技能面での体験もしてきた。

さらに、ストローを使って造形遊びをしたときには、長くつなげることの楽しさやつなげ方の工夫を学習してきた。その中で、児童は自然に大きなグループをつくり、ダイナミックな活動ができた。

(3) 指導にあたって

本教材は、児童にとって興味深く楽しいものになるように導入の工夫を図る。初めて使う発泡スチロールに興味をもたせ、簡単に切れたり、折れたりすることや割り箸がつなぎになることを教師の演示や材料との触れ合いを通して、児童の意欲を喚起していきたい。

「思いを形に表す」段階では、自分でどんどんつくっていくうちに、友達同士でつなげる児童が出てきたり、何かに見立てて作品になったりしていくように支援していく。そして、楽しい造形活動をよりダイナミックで立体的な表現へと発展させていきたい。

また、ブラックライトを効果的に用い、さらに色や形の発想を広げ、児童の色づけや模様付けの意欲を図るだけでなく、お互いの作品の良さに気づくことができるようにしていきたい。

3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
発泡スチロールと割り箸をつないでいくことに興味を持ち、楽しみながら造形活動をする。	発泡スチロールと割り箸を自由につなぎ、できた形から新しい活動を思いついたり、考えたりする。	発泡スチロールと割り箸のつなぎ方や着色の工夫をし、自分の思いを表現しようとしている。	つくったものを見せ合いながら、お互いの工夫したことを認める。

4 学習活動における具体的評価規準と評価計画（4時間扱い）

次 (分)	段階	学習内容	評価規準と評価方法〔 〕	A十分に満足できる C(努力を要する)への手立て
1 次 (20)	素材との出会い	<ul style="list-style-type: none"> ・ストローをつないだ活動を振り返り、つなげることに興味をもつ。 ・教師の演示を見たり、試したりして活動への興味や関心を高める。 	<p>【関】 発泡スチロールをつなげていくことに興味をもつ。 〔発言・つぶやき〕</p> <p>【発】 自分なりに、制作の見通しをもつことができる。 〔つぶやき・観察〕</p>	<p>【関】A 発泡スチロールと割り箸をつなげることに興味をもち、自分でどんどんつくっていかうとする。(主体的) Cへの手立て 参考作品からのヒント。 友達との発想の交流</p>
2 次	思いを形に表す	<ul style="list-style-type: none"> ・発泡スチロールをいろいろな形に切って割り箸でつなぐ。 	<p>【関】 発泡スチロールをどんどん切り、割り箸でつなごうとする。 〔つぶやき・作品〕</p> <p>【発】 自分のやりたいようにつなげていったものをある形に見立てて考えたり、思いをめぐらせたりする。 〔観察・作品〕</p> <p>【創】 バランスのよいつなぎ方を工夫する。 〔観察・作品〕</p> <p>【鑑】 友達の作品のいいところに気づき、自分の作品に生かそうとする。 〔観察・作品〕</p>	<p>【関】A 発泡スチロールと割り箸をつなぐ過程を楽しみ、自分の思いをふくらませながらどんどんつなごうとする。 Cへの手立て 参考作品からのヒント 友達との発想の交流</p> <p>【発】A 自分のやりたいようにつなげていったものをある形に見立てて考えたり、発想の方向を変えるなどしながら思いをめぐらせたりする。 Cへの手立て 参考作品からのヒント 友達との発想の交流</p> <p>【創】A 発泡スチロールと割り箸のつなぎ方を工夫し、自分の思いを表現しようとしている。 Cへの手立て 教師との対話 友達との発想の交流</p>

(105)		<ul style="list-style-type: none"> ・形のできあがった作品に色を塗ったり、模様を描いたりする。 ・ブラックライトを照らすことにより、さらに発想をひろげてつなげたりつくりなおしたりする。 	<p>【発】 自分の思いにあわせて、新たな表し方を考える。 〔観察・作品〕</p> <p>【関】 自分のつくったものに進んで色を塗ったり、模様を描いたりする。 〔つぶやき・作品〕</p>	<p>【発】A 自分の思いにあわせて、いろいろな表し方を試したり、作り直したりするなど、自分が納得するまで進んで試みようとする。</p> <p>【への手立て】 友達の活動を紹介したり、対話によって児童の思いを引き出したりする。</p>
(30)				
3次 (15) (本時)	よさを味わう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の作品を鑑賞し、表現のよさを味わう。 	<p>【鑑】 友達の作品のいいところに気づき、発表する。 〔観察・作品〕</p>	

5 本時の指導

(1) 目標

- ア ブラックライトによって光る作品の色や形の変化を楽しみ、さらに発想をふくらませ、つなげたり色をぬるなど工夫をする。
- イ 友達の作品も鑑賞し、お互いの作品のよさを味わう。

(2) 学習活動における具体の評価規準

観 点	十分満足できる状況 (A) と判断できる様相の例	学習活動における具体の評価規準 (B)
関 心 意 欲 態 度		ブラックライトで照らされた作品のおもしろさを感じ、蛍光カラーを使って色を塗ったり、もっとつなげようしたりする。
発 想 構 想 の 能 力	自分の思いにあわせて、いろいろな表し方を試したり、作り直したりするなど、自分が納得するまで進んで試みようとする。 (継続的)	自分の思いにあわせて、新たな表し方を考える。
創 造 的 な 技 能		発泡スチロールと割り箸のつなげ方を工夫したり、着色のしかたを工夫したりする。
鑑 賞 の 能 力	友達の作品に関心を持って見ようとし、友達の作品のよさに共感し、それを大切にしようとする。 (関連的)	友達の作品のいいところに気づき、発表する。

(3) 準備

ア 教師

発泡スチロール、割り箸、蛍光ポスターカラー、ブラックライト(3箇所)、ブルーシート、新聞紙、スチロールカッター、ダンボールカッター、皿 など

イ 児童

自分で集めた発泡スチロールや割り箸、筆

(4) 展開

過程 (分)	学習内容と予想される児童の反応	教師の働きかけと主な評価
つかむ (10)	<p>1. 前時までの活動を想起する。 前時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発泡スチロールをつないで形をつくりました。 色を塗って工夫しました。 ブラックライトで光らせるとおもしろかったなあ。 <p>3. めあてや本時の活動内容を確認する。 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 自分のつくったふしぎなせかいをもっと楽しくしよう。 みんなでふしぎなせかいをたんけんしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな色を使って色をぬるぞ。 不思議な感じになるように、色の使い方を考えてみよう。 もう少し、つなげて光るところを変えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ブラックライトで照らすことで、これまでと違った作品の見方をし、「ふしぎなせかい」を感じられたことを想起し、もっと蛍光カラーを使って光らせたいという意欲につなげるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 課題の「もっと楽しく」するためにどのような活動を行えばいいのかを確認し、「あらかず」活動につなげていく。 <p>【関】 ブラックライトで照らされた作品のおもしろさを感じ、蛍光カラーを使って色を塗ったり、もっとつなげようしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業の安全については、具体的に注意する。
あらかず (20)	<p>4. 表現する。 蛍光カラーを使って模様を描いたり色を塗ったり、発泡スチロールをつなげたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> よーし、いっぱい描くぞ どんな色を使おうかな。 どんな風になるか楽しみだな。 もっと大きくしたら、楽しいだろうな。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意欲が持続するように、支援を行う。 <p>【発】 自分の思いにあわせて、新たな表し方を考える。 Aと判断できる具体的な様相の例 自分の思いにあわせて、いろいろな表し方を試したり、作り直したりするなど、自分が納得するまで進んで試みようとする。(継続的) Cへの手立て 友達の活動を紹介したり、対話によって児童の思いを引き出したりする。</p> <p>【創】 発泡スチロールと割り箸のつなげ方を工夫したり、着色のしかたを工夫したりする。</p>
まとめる (15)	<p>5. 作品の鑑賞 作品を見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> こんな風に色を使うときれいだなあ。 自分も今度はまねしてみたい。 なんだか不思議な世界にいるみたい。感想を発表し合う。 ブラックライトで照らしたら、おもしろくなった。 模様が浮かび上がっているみたいでおもしろい。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分に鑑賞できるように時間の確保をする。また、効果的に鑑賞できるように音楽を流し、自分たちがつくった不思議な世界を味わうようにする。 <p>【鑑】 友達の作品のいいところに気づき、発表する。 発言 Aと判断できる具体的な様相の例 友達の作品に関心をもってみようとし、作品のよさに共感し、それを大切にしようとする。(関連的) Cへの手立て 友達の活動を紹介したり、対話によって児童の思いを引き出したりする。</p>